

# 1. 環境保全措置の実施状況

## 【埋立地関連】

環境の要素の区分			環境保全措置の検討	実施状況
大気質	二酸化硫黄、 二酸化窒素、 浮遊粒子状物質、 一酸化炭素	[利用時]	埋立地の利用に伴う周辺大気環境への影響を低減するため、埋立地を利用する関係事業者等に公共交通機関の利用や低公害車の導入を要請する。	護岸建設工事中であり、埋立地を利用する段階に至っていない。
		[工事の実施]	埋立用材、建設資材等の運搬にあたっては、陸上輸送による都市部の大気環境への影響を低減するため、原則として海上輸送により行うこととする。 さらに、周辺大気環境への影響を低減するため、低公害の施工機械の積極的な導入に努める。	建設資材等の運搬にあたっては、海上輸送により行っている。 さらに、周辺大気環境への影響を低減するため、可能な限り低公害の施工機械を導入している。
	トリクロロエチレン、 テトラクロロエチレン、 ベンゼン	[利用時]	埋立地の利用に伴う当該物質の排出をできる限り抑制するため、排出抑制効果の高い施設構造を採用する。	護岸建設工事中であり、埋立地を利用する段階に至っていない。
水象	海水の流れ	[存在・利用時]	海水の流れの変化を低減するため、新島南防波堤では、透過型構造を採用する。	新島南防波堤については、具体的な設計に至っていないが、透過型構造に関する情報収集等を行っていく。
水質	化学的酸素要求量 (COD)、 全窒素(T-N)、 全リン(T-P)、 溶存酸素量(DO)	[存在・供用時]	周辺海域の水質の改善と事業による水質への影響を低減するため、市内河川、大阪港内の汚泥浚渫で発生する底泥の受入、大阪市水環境計画に基づく水質汚濁負荷量の低減などの諸施策の積極的推進、新島南防波堤における透過型構造の採用・護岸建設の段階的施工などの対策を実施する。	護岸建設工事中であり、浚渫した汚泥を受入れる段階に至っていないが、大阪市水環境計画に基づき、海面清掃等を実施して水質汚濁負荷量の低減を図っている。 新島南防波堤については、具体的な設計に至っていないが、透過型構造に関する情報収集等を行っていく。 大阪市が施工している大阪港新島地区については、護岸建設工事を段階的に行う計画である。
	工事中の濁り、 廃棄物処分場からの 余水排水	[工事の実施]	工事による水質への影響を低減するため、外周護岸概成後に土砂を投入する、汚濁防止膜の早期展張、余水排水の適切な処理、環境監視の実施等の対策を行う。	護岸建設工事であり、水質への影響を低減するため、汚濁防止膜を工事実施区域の周辺に展張した。 また、環境監視については、事後調査計画に基づき濁り等の監視を行った。 護岸建設工事中の濁度については、管理目標値Ⅱの超過、若しくは管理目標値Ⅰを3日以上連続で超過した場合に原因究明の調査をすることとしているが、環境監視の結果、そのような状況はなかった。しかし、管理目標値Ⅰの超過が認められたため、必要に応じて原因究明のための追加調査を行い、本工事による影響が示唆される超過ではないことを確認した。(護岸工事の進捗により外海と隔てられたことに伴い、11月15日で護岸建設工事中の濁り等の監視は終了している。) なお、護岸建設工事中であり、土砂等(埋立用材)を投入する段階に至っていない。また、余水排水の適切な処理が必要な段階に至っていない。

環境の要素の区分			環境保全措置の検討	実施状況
騒音	道路交通騒音	[利用時]	埋立地利用時の道路交通騒音が周辺環境に及ぼす影響を低減するため、埋立地を利用する関係事業者等に公共交通機関等の利用を要請する。	護岸建設工事中であり、埋立地を利用する段階に至っていない。
	建設作業騒音	[工事の実施]	埋立工事中の建設作業騒音が周辺環境に及ぼす影響を低減するため、低公害の施工機械の積極的な導入に努める。	工事中の建設作業騒音が周辺環境に及ぼす影響を低減するため、可能な限り低公害の施工機械を導入している。
振動	道路交通振動	[利用時]	埋立地利用時の道路交通振動が周辺環境に及ぼす影響を低減するため、埋立地を利用する関係事業者等に公共交通機関等の利用を要請する。	護岸建設工事中であり、埋立地を利用する段階に至っていない。
低周波空気振動		[工事の実施]	埋立工事中の低周波空気振動が周辺環境に及ぼす影響を低減するため、作業船の点検・整備を十分に行うなどの対策を実施する。	工事中の低周波空気振動が周辺環境に及ぼす影響を低減するため、作業船の点検・整備を十分に行うなどの対策を実施している。
悪臭		[工事の実施]	埋立工事中の悪臭が周辺環境に及ぼす影響を低減するため、廃棄物の埋立処分に際しては、受入基準に基づき著しく悪臭を発するものは受け入れないとともに、埋立作業面の覆土を励行するなどの対策を実施する。	護岸建設工事中であり、廃棄物を埋立処分する段階に至っていない。
陸域生態系(鳥類)		[存在・利用時]	埋立地の西側水際線は、人工磯や生物の生息・生育地の確保など、環境創造の場として積極的に整備し、北側水際線についても、自然に近い護岸整備を行う。また、西側及び北側護岸背後の緑地整備にあたっては、鳥類の生息場の創出に配慮する。	人工磯や生物の生息・生育地の確保など、環境創造の場として整備するため、西側水際線を傾斜構造としている。また、北側水際線についても、自然に近い護岸整備のため傾斜構造としている。 なお、西側及び北側護岸背後の緑地については、具体的な整備の段階には至っていない。
		[工事の実施]	工事中は、事業地内の鳥類の飛来、営巣、繁殖の状況を適切に把握し、コアジサシ等の営巣、繁殖が確認された場合には、営巣地周辺での工事の実施に配慮する。	陸域化している1区護岸においてコアジサシ等の飛来は確認されたが、営巣、繁殖については確認できなかった。

環境の要素の区分		環境保全措置の検討	実施状況
海域生態系	[存在・利用時]	<p>底層における貧酸素状態の低減と多様な海域生物の生息空間を創出するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内河川、大阪港内の汚泥浚渫で発生する底泥の受入、大阪市水環境計画に基づく施策の積極的推進</li> <li>・人工磯、傾斜護岸等による生物生息場の創出</li> <li>・垂直護岸等における海水の鉛直混合を促進する構造の採用に向けた検討の推進</li> <li>・新島南防波堤における透過型構造の採用などの対策を実施する。</li> </ul>	<p>護岸建設工事中であり、浚渫した汚泥を受入れる段階に至っていないが、大阪市水環境計画に基づき、海面清掃等を実施して水質汚濁負荷量の低減を図っている。</p> <p>護岸の建設にあたり、垂直護岸等における海水の鉛直混合を促進する構造について検討した結果、実用的な技術は存在せず、採用には至らなかったが、生物生息場を創出するため、西側水際線及び北側水際線を傾斜構造としている。</p> <p>また、新島南防波堤については、具体的な設計に至っていないが、透過型構造に関する情報収集等を行っていく。</p>
	[工事の実施]	<p>埋立工事による海域生物の生育・生息環境への影響を低減するため、外周護岸が概成してから埋立用材を投入するとともに、汚濁防止膜の早期展張、余水排水の適切な処理、環境監視の実施等の対策を実施する。</p>	<p>護岸建設工事中であり、外周護岸が概成後、廃棄物の受入にあたっては、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づく検査に適合したうえで、埋立用材を投入する計画である。</p> <p>工事の実施にあたっては、事前に策定した事後調査計画に基づき環境監視を行っている。特に、護岸建設工事中の濁り監視、浚渫時の濁り監視については管理目標値及び監視フィードバック体制を策定済みである。</p>
廃棄物	[工事中]	<p>埋立工事及び施設建設においては、工事の請負業者に対して関係法令を遵守させ、自らの責務において分別排出、再資源化に努め、適正に処理するよう指導するほか、廃棄物の発生量を抑制するため、工事加工資材の活用等の対策を実施する。</p>	<p>護岸建設工事の請負業者に対して、関係法令の遵守を指導するとともに、自らの責務において分別排出、再資源化に努め、適正に処理するよう指導するほか、廃棄物の発生量を抑制するため、工事加工資材の活用等に努めている。</p>
地球環境(温室効果ガス)	[利用時]	<p>埋立地の利用に伴う二酸化炭素排出量を低減するため、関係事業者等に公共交通機関等の利用、低公害車の導入や施設の整備にあたり省資源・省エネルギーを最大限考慮したものとすることを要請する。</p>	<p>護岸建設工事中であり、埋立地を利用する段階に至っていない。</p>
	[工事中]	<p>埋立工事の実施に伴う二酸化炭素排出量を低減するため、低公害・省エネルギー型の施工機械の積極的な導入に努める。</p>	<p>工事の実施に伴う二酸化炭素排出量を低減するため、可能な限り低公害・省エネルギー型の施工機械を導入している。</p>

【搬入施設関連】

環境の要素の区分			環境保全措置の検討	実施状況
大気質	二酸化硫黄、 二酸化窒素、 浮遊粒子状物質、 一酸化炭素	[利用時]	廃棄物輸送車の走行に伴う周辺大気環境への影響を低減するため、分散配置された既設の搬入施設を活用するとともに、搬入ルートの設定及び受入時間帯の調整により輸送車の集中を緩和する。	護岸建設工事中であり、廃棄物輸送車の走行の段階に至っていない。
騒音	道路交通騒音	[利用時]	廃棄物輸送車の走行に伴う騒音が周辺環境に及ぼす影響を低減するため、分散配置された既設の搬入施設を活用するとともに、搬入ルートの設定及び受入時間帯の調整により輸送車の集中を緩和する。	護岸建設工事中であり、廃棄物輸送車の走行の段階に至っていない。
振動	道路交通振動	[利用時]	廃棄物輸送車の走行に伴う振動が周辺環境に及ぼす影響を低減するため、分散配置された既設の搬入施設を活用するとともに、搬入ルートの設定及び受入時間帯の調整により輸送車の集中を緩和する。	護岸建設工事中であり、廃棄物輸送車の走行の段階に至っていない。
悪臭		[利用時]	搬入施設の利用に伴う悪臭が周辺環境に及ぼす影響を低減するため、受入基準に基づき著しく悪臭を発するものは受け入れないとともに、積込施設を建屋構造とする、施設内の清掃等管理の徹底に努めることとする。	護岸建設工事中であり、搬入施設の利用の段階に至っていない。